

インターバンクの声（2015年6月3日）

ギリシャ支援協議の行方に対し、市場では当然ながら悲観論と楽観論とに二分されているが、昨晩は債権団がギリシャ政府に提示する支援合意書の草案がまとまったことが伝わり、勿論、それをギリシャが受け入れるかどうかの部分はあるが、ユーロが対ドルに対して上昇した。もっとも昨晩のユーロの上昇は、ギリシャ支援協議に関する要因だけではなく、ロンドン勢が参入し始めた頃からゆっくり始まっており、5月のユーロ圏消費者物価指数（CPI）速報値が前年比0.3%、コア指数でも0.9%の上昇発表が発端となっていた。この指標結果が大きく影響したために、独10年債利回りは0.55%前後から0.70%台まで大幅上昇となれば、5月の最終週に再度1.05ドル方向を目指しそうだと思われた以降に構築されたユーロ売りのポジションも買い戻さざる得ない状況だったようだ。その後、ギリシャ中央銀行のストゥルナラス総裁がユーロ圏にとどまる見通しについて楽観視しているとの発言や、ニューヨーク市場に入って発表された米製造業受注が弱い結果となったこともあって1.12ドル近くまで上昇した。ユーロの先行き見通しが変わったとの声も出始めているようだが、足元の相場が依然として5月のユーロ相場の中点であることを考えれば、ユーロが底を打ったと決めつけるのはまだ早いだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。